

## 子どもの事故予防について

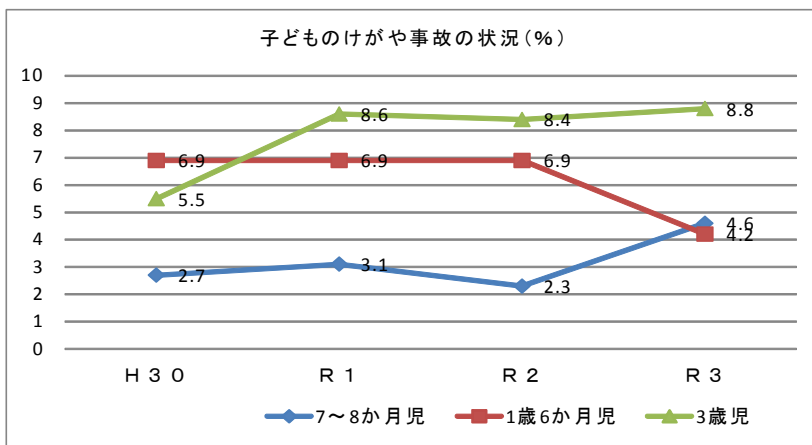


1～9歳児の死亡原因の上位を占めるのが「不慮の事故」（思いがけない事故）です。また、0～4歳児の不慮の事故による死亡は、家庭内でも起こっています。子どもの事故について、天草市の現状と年齢別に見た、起きやすい事故と予防のポイントについて確認してみましょう。

過去の記事はコチラ  
(市ホームページ)



### 天草市のけがや事故の現状（乳幼児健診問診票結果より）



天草市の子どものけがや事故率の状況です。



- ・1歳6か月児でのけがや事故率は減少傾向にあるものの、3歳児では微増しています。
- ・7～8か月児は誤飲率を示しています。昨年と比較して増加しています。



### 年齢別にみた、起きやすい事故と予防のポイント



#### <1歳までに起きやすい事故>



	起きやすい事故	予防のポイント
転落・転倒	<ul style="list-style-type: none"> <li>●寝返りによる転落 (ベッドやソファーなどから落ちる)</li> <li>●椅子やテーブルからの転落</li> <li>●階段からの転落と段差での転倒</li> <li>●抱っこひも使用時の転落</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベビーベッド柵を利用する</li> <li>・ハイチェアの安全ベルトの確認</li> <li>・椅子で遊ばせない</li> <li>・転落防止用の階段柵を設置し、閉め忘れない</li> <li>・抱っこひも使用時、前かがみになったり、降ろす時は低い姿勢で、手で支える</li> </ul>
誤飲・窒息	<ul style="list-style-type: none"> <li>●掛け布団、ベッド周りの衣類、ぬいぐるみ、まくらなどで顔が埋もれる</li> <li>●お菓子の包装フィルム、シールなどの誤飲</li> <li>●ボタン電池、おもちゃなどの小さなものでの誤飲</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベッド周りには、ぬいぐるみタオル等はおかない</li> <li>・お菓子を食べさせる時など包んである物はすぐ片づける</li> <li>・子どもの手の届かない、見えない所に保管する</li> </ul> 

<4歳までに起きやすい事故>



起きやすい事故		予防のポイント
転倒・転落	<ul style="list-style-type: none"> <li>●窓や出窓からの転落</li> <li>●ベランダや階段からの転落</li> <li>●ベビーカー・ショッピングカートから転落</li> <li>●遊具からの転落</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ベランダ、窓の前に踏み台となる物を置かない</li> <li>・ベランダを遊び場にしない</li> <li>・ベビーカーのベルトはしっかり締める</li> <li>・ショッピングカートの上で遊ばせない</li> <li>・遊具は対象年齢を守り、大人が目を離さない</li> </ul>
やけど	<ul style="list-style-type: none"> <li>●炊飯器や加湿器の蒸気に触る。</li> <li>●アイロン、ストーブに触る。</li> <li>●ポット、鍋をひっくり返す。(テーブルクロス、コードを引っ張る)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・やけどの原因となるものは、子ども手が届かない場所に置く</li> <li>・暖房器具の周りには安全柵などで囲む</li> <li>・キッチンにゲート等を設置し、入らせない</li> </ul>
水まわりの事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>●入浴時に溺れる(浴槽へ転落し溺れる)</li> <li>●ビニールプールや、プールでの事故</li> <li>●海や川での事故</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・お風呂から上がる際は、子どもを先に浴槽浴室から出す</li> <li>・入浴後は浴槽の水を抜き、浴室には外鍵をつけて入れないようにする</li> <li>・プール遊び、海、川遊びは、大人が付き添い、目を離さない</li> </ul>
誤飲、窒息	<ul style="list-style-type: none"> <li>●医薬品、洗剤、化粧品、たばこ、お酒などの誤飲</li> <li>●食事中(豆、コンニャク、肉など)に食べ物で窒息</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・危険なものは、目に触れない場所、手の届かない場所へ保管する</li> <li>・食べ物や飲み物を口に入れたまま遊んだり、話したり、寝転んだりさせない</li> </ul>
交通事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>●道路への飛びだし</li> <li>●車内での熱中症</li> <li>●車内からの転落</li> </ul> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・手をつないで歩く</li> <li>・車から降りるときに目を離さない</li> <li>・予想外に車内温度が上昇し、短時間でも熱中症に陥ることもあり、子どもだけ車内に残さない</li> <li>・チャイルドシートを使用する</li> </ul>
挟む・切るなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>●カミソリ、ハサミなど刃物のけが</li> <li>●ドアや窓で指を挟む</li> <li>●ドラム式洗濯機での事故</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子どもの手の届かない場所へ保管する</li> <li>・ドアや窓の開閉時には、子どもが近くにいないか確認する</li> <li>・未使用の洗濯機の蓋は必ず締め、チャイルドロック機能を利用</li> </ul>

～子どもを事故から守る 事故防止ハンドブック(消費者庁)引用～



子どもの事故の内容は、年齢によって特徴があります。その多くは親の注意や環境づくりによって防ぐことができます。発育過程の中でいつ頃どんな事故が起こりやすいか知っておくことは事故予防の上で大切です。子どもの周囲の環境を再点検してみましょ。他に、事故予防については、母子健康手帳のP80～をご覧ください。もしもの時の「応急手当方法」等詳しく掲載してありますので、参考にしましょう。